

平成28年度 指定管理施設運営状況評価表

1 施設の概要

施設の名称	障害児入所施設 はまゆり学園		
指定管理者	団体名	社会福祉法人 みちのく福祉会	
	代表者名	理事長 内田大輔	
	所在地	むつ市大字奥内字大室平9 1番地1	
指定期間	平成28年4月1日～平成29年3月31日		
指定管理業務の内容	1. 障害児入所支援 2. 短期入所事業 3. 日中一時支援事業		

2 収支の状況

単位：千円

区分	計画額①	実績額②	増減 (②－①)
収入合計 (A)	151,733	138,491	△13,241
うち利用料金額	101,003	72,222	△28,780
うち指定管理料	44,000	65,550	21,550
支出合計 (B)	151,733	119,917	△31,815
うち人件費	96,576	86,515	△10,000
収支差 (A) - (B)	0	18,574	△18,457
計画書と比較した実績額の増減理由	<p>収入については、当初計画の入所児童数より少ない人数となったため、収入金額が計画通りとならなかった。</p> <p>地域支援(短期入所・日中一時)の利用収入については、ほぼ計画通りの結果となっています。</p> <p>支出においては、節電への取り組みや空調機器を自動運転から手動運転に切り替え、清掃や日常点検を頻繁に行ったことと通院や外出時の車輛を効率的に手配して運行したことなどにより、光熱水費が大幅に計画を下回りました。</p>		

3 施設利用の状況

単位：人

	区 分	計 画 ①	実 績 ②	増減 (①-②)
利 用 者 数	入 所	3 0	2 0	△ 1 0
	短 期 入 所	2 4 0	2 1 0	△ 3 0
	日 中 一 時	6 0 0	6 5	△ 5 3 5
利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) 【年4回実施】 1. 行事開催に関すること (対象者：入所児童の保護者) 2. 運営に関すること (入所：年度途中) (対象者：入所児童の保護者) 3. 運営に関すること (短期、日中一時) (対象者：短期、日中一時児童の保護者) 4. 運営に関すること (入所：年度末) (対象者：入所児童の保護者)				

4 自主事業の実施状況

単位：人・円

No.	事 業 名	事業内容	利用者数	収 入	支 出
1	子と親子の施設体験事業	障害がある児童を持つ家族を対象に、はまゆり学園がどのようなものなのかを知ってもらい、利用の促進につなげる。	38	0	31,704
2	障害制度の研修	障害児と成人の制度の違いを知ってもらい、地域移行に向けての準備に役立ててもらおう	42	0	28,231
3	障がい者スポーツ教室	障がい者スポーツの普及とリハビリテーションを目的とし、多くの人との交流の機会を持ち、障がい者自身の社会参加を促すとともに、ボランティア等に関心を持ってもらい、人材を育成する機会としたい	83	0	11,520

5 個別項目評価

評価項目	自己評価	下行評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか	A	B
②施設の使用許可等が適正、円滑に行われたか	A	A
③利用者に対する接客マナー等職員の勤務態度は適正だったか	A	B
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか	A	A
(2) 利用促進に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか	A	A
②潜在的な利用者等に営業活動を行い、利用アピールをしたか	A	A
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか	A	A
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか	A	A
②潜在的な利用者等に営業活動を行い、利用アピールをしたか	A	B
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか	A	A
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
①施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか	A	A
②設備・備品の維持管理及び修繕が適正に行われたか	A	B
③労働関係法令を遵守し、適正な管理を行ったか	A	B
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
①利用者が平等利用できるよう利用情報提供の配慮をしたか	A	B
②日常の事故防止等の安全対策は適正であったか	A	A
③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか	A	A
④利用者の個人情報保護は徹底されていたか	A	A

6 指定管理者総合評価

今年度より3年間の予定で「指定管理者制度」が始まりました。前年度後半頃から児童及び保護者の不安解消とスムーズな施設運営のため、引継ぎを継続的且つ長期的に実施したことが、児童への支援及び運営管理の安定に繋がったものと考えています。

児童支援については、個別支援計画の充実を図り、卒業を目前にした高等部3年生を中心に調理活動、社会体験活動(A T Mの使い方など)の取組みを進め、事務職員を含め児童との触れ合いを大切にするため、出勤時間を変更して職員全体で登校への促しを行うことにより、以前は登校できなかった児童がほぼ100%の出校率と格段に向上しています。また、看護師の常勤配置により児童の健康面の維持管理やD r及び養護教諭との連携、保護者の安心感などが大幅に向上したことが挙げられます。

職員の資質向上を目的とした職員研修は、知的障害者福祉協会全国大会や東北地区虐待防止権利擁護事業研修会、外部講師を招聘した勉強会、職員同士の意識を高める学園内ワークショップなどを含め、当初計画通りに全職員が1回以上各種研修や施設見学などに参加でき、支援スキルとモチベーションの向上が図られたと思います。

入所児童数及び地域支援(短期入所・日中一時)については、少子化や地域福祉サービスの充実(放課後等デイサービス)などにより計画通りとはならなかったものの、土・日・祝を含めお盆や年末年始もニーズに応じて、柔軟な対応と受け入れへの取組みを進めたことにより、利用者の利便性が高まり評価を得る結果となりました。

支出においては、節電への取り組みや空調機器を自動運転から手動運転に切り替え、車輛の効率的な運行計画等により光熱水費が大幅に計画を下回りました。

施設設備については、児童の悪戯行為により正面玄関天窓のガラスが破損し、修理をしました(児童にケガは無し)。今後も施設の維持管理には、万全を期す所存であります。

7 下北地域広域行政事務組合の総合評価

指定管理初年度として、児童及び保護者の不安解消とスムーズな施設運営のため、開始前、半年間の継続的かつ長期にわたる、引継ぎを実施したことが功を奏し、大きな問題もなく、運営されています。

地域との連携を図るため、夏まつり、お楽しみ会の開催、児童や保護者への施設体験や施設パンフレット作成、利用者へのアンケートによる接遇業務改善に取り組んでおり、基本協定書（業務仕様書含む）等に基づき、適正に運営されていると認めます。

施設管理運営については、四半期毎に担当者会議を開催し、管理上の問題点を協議するほか、逐次、組合側へ報告するなど緊急連絡体制も確立している。支出については、節電に取り組んでいるなか、特に空調機器を手動運転に切り替えたことによる光熱水費が大幅に下回ったことなど、経費削減にも努力し、適正に管理されていると認めます。

施設全体において、新しい施設であることから、大規模な修理修繕はない。竣工した年度の次年度に移行したこともあり、設備の運転や操作など不慣れな点は、致し方がないが、屋内外の建具や設備機器の日常点検を行っており、適正に管理されていると認めます。

最後に、これまで以上に児童の入所人員増に向け、自主事業を有効に活用されることを期待し総合評価とします。